

鹿児島県上甕島からのシロマダラ および中甕島からのヒバカリの標本に基づく初記録

岡本康汰¹・江頭幸士郎²・城野哲平³

¹ 〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館分子生物多様性研究資料センター

² 〒 805-0071 福岡県北九州市八幡東区東田 2-4-1 北九州市立自然史・歴史博物館

³ 〒 606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科

Abstract

The oriental odd-tooth snake, *Lycodon orientalis*, and the Japanese keelback, *Hebius vibakari vibakari*, were collected from Kamikoshiki and Nakakoshiki Islands, respectively. These specimens are the first records of these species on each island. Measurements and counts of these specimens are described.

はじめに

鹿児島県甕島列島は薩摩半島の沖約 30 km に位置し、上甕島、中甕島、下甕島の主要 3 島とその属島からなる。同列島の爬虫類相に関して、下甕島についてはその概要がほぼ判明している（森田, 1981；柴田, 1981, 1990；川名・柴田, 1988；鮫島, 1995；Toda and Okada, 1999；岡本ほか, 2017；Table 1）。一方、上甕島と中甕島の爬虫類相の報告は乏しく、後者に至ってはヤモリ類 2 種（ニシヤモリ *Gekko* sp. とミナミヤモリ *G. hokouensis*）が報告されているのみである（岡本ほか, 2017；Chiba and Chiba, 2024；Table 1）。筆者らが甕島列島で両生爬虫類を対象にした調査を行ったところ、上甕島でシロマダラ *Lycodon orientalis* 1 個体を、中甕島でヒバカリ *Hebius vibakari vibakari* 2 個体を確認したためここに報告する。

記 録

1. シロマダラ *Lycodon orientalis* (Hilgendorf, 1880)

2022 年 7 月 8 日 23:03, 上甕島の瀬上 (31.8776°N, 129.8603°E) で林間の未舗装のトレイル上を這っている個体を著者の一人（城野）が発見し、採集した。消化管内容物は確認されなかった。

性別オス、頭胴長 356 mm, 尾長 128 mm, 体重 31.0 g, 体鱗列数（頸部 - 胴部中央 - 総排泄孔の直前；以降同順）19-17-15, 腹板数 200 (wider than long system), 肛門板数 1 対, 尾下板数 81 対。本個体は京都大学総合博物館標本として保管されている (KUZ R089471; Fig. 1A)。

2. ヒバカリ *Hebius vibakari vibakari* (Boie, 1826)

個体 1 2025 年 7 月 4 日 22:41, 中甕島の平良にある斜面の林縁 (31.8028°N, 129.8336°E) で活動中の個体を著者の一人（江頭）が発見し、採集した。消化管内容物は確認されなかった。

性別メス、頭胴長 392 mm, 尾長 116 mm, 体重 22.0 g, 体鱗列数 19-19-17, 腹板数 148 (wider than long system), 肛門板数 1 対, 尾下板数 70 対。本個体は北九州市立自然史・歴史博物館標本として保管されている (KMNH KE3079)。

個体 2 (Fig. 1B) 2025 年 7 月 6 日 0:12, 中甕島の平良港付近にある草地 (31.8030°N, 129.8383°E) で移動中の個体を著者の一人（岡本）が発見し、採集した。本個体は茨城県つくば市まで持ち帰り、ヌマガエル *Fejervarya kawamurai* を餌としてしば

Okamoto, K., K. Eto and T. Jono. 2025. First records of *Lycodon orientalis* from Kamikoshiki Island and *Hebius vibakari vibakari* from Nakakoshiki Island, Kyushu, Japan, based on specimens. *Nature of Kagoshima* 52: 141-143.

✉ KO: Center for Molecular Biodiversity Research, National Museum of Nature and Science, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba, Ibaraki 305-0005, Japan (e-mail: kota_okamoto@kahaku.go.jp).

Received: 4 December 2025; published online: 6 December 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-034.pdf



Fig. 1. A male *Lycodon orientalis* (KUZ R089471) collected from Kamikoshiki Island, Kyushu, Japan (A), and a female *Hebius vibakari* (NSMT-H21751) collected from Nakakoshiki Island, Kyushu, Japan (B).

らく飼育した後、2025 年 8 月 29 日に計測と標本
化を行った。よって、計測値は捕獲時とは異なる

可能性がある。

性別メス、頭胴長 420 mm、尾長 140 mm、体

Table 1. Terrestrial reptiles known from the three main islands of the Koshiki Islands. ●: records based on voucher specimens or observations by authors. ○: records based on interviews with local residents.

Species name	Kamikoshiki	Nakakoshiki	Shimokoshiki	References
<i>Gekko japonicus</i>	●			Okamoto et al., 2017
<i>Gekko hokouensis</i>	●	●		Chiba and Chiba, 2024
<i>Gekko</i> sp. Nishiyamori	●	●	●	Shibata, 1990; Okamoto et al., 2017
<i>Plestiodon japonicus</i>	●		●	Shibata, 1981
<i>Takydromus tachydromoides</i>	●		●	Shibata, 1981
<i>Achalinus spinalis</i>			●	Kawana and Shibata, 1988
<i>Lycodon orientalis</i>	●		●	Toda and Okada, 1999; this study
<i>Euprepiophis conspicillatus</i>			○	Sameshima, 1995
<i>Elaphe climacophora</i>			●	Sameshima, 1995
<i>Elaphe quadrivirgata</i>	●		●	Shibata, 1981
<i>Hebius vibakari vibakari</i>		●	●	Shibata, 1981; this study
<i>Rhabdophis tigrinus</i>	●		●	Shibata, 1981
<i>Gloydus blomhoffii</i>			●	Kawana and Shibata, 1988

重 34.7 g, 体鱗列数 19-19-17, 腹板数 147 (wider than long system), 肛門板数 1 対, 尾下板数 71 対. 本個体は国立科学博物館の両生爬虫類標本として保管されている (NSMT-H21751).

考 察

本報告は, 上甕島からのシロマダラおよび中甕島からのヒバカリの標本に基づく初記録であり, 中甕島からのヘビ類の初記録である. 甕島列島のヘビ類相については, 下甕島はその概要が判明しており, 九州本土と同じ 8 種のヘビ類が確認されている (柴田, 1981; 川名・柴田, 1988; 鮫島, 1995; Toda and Okada, 1999; Table 1). ただし, ジムグリ *Euprepiophis conspicillatus* は住民への聞き取り調査に基づく記録である (鮫島, 1995). 上甕島のヘビ類としては, これまでシマヘビ *Elaphe quadrigata* とヤマカガシ *Rhabdophis tigrinus* のみが報告されている (柴田, 1981).

上甕島と下甕島でシロマダラが確認されていること, および中甕島には餌となりうるヤモリ類が分布する (岡本ほか, 2017; Chiba and Chiba, 2024) ことを考慮すると, 今後中甕島でシロマダラが確認される可能性は高い. 加えて, 中甕島でヒバカリの生息が確認されたことを考えると, より面積の大きい上甕島に分布している可能性は十分考えられる. 両島における両生爬虫類相の調査は未だ不十分であると考えられ, 今後の詳細な生

息状況調査が望まれる.

謝 辞

甕島列島における調査およびヒバカリの計測にご協力いただいた栗山武夫氏に感謝申し上げます. 本研究の一部は, 科学研究費基盤 C (20K06789) および基盤 B (24K02085) の助成を受けて行われました.

引用文献

- Chiba, M. and S. Chiba. 2024. Hidden invasiveness of non-native Schlegel's Japanese gecko (Reptilia: Squamata: Gekkonidae) and three-way competition among natives and non-natives in Japan. *Molecular Ecology*, 33(13): e17420.
- 川名美佐男・柴田保彦. 1988. 甕島列島で新たに発見された 2 種のヘビ. 大阪市立自然史博物館研究報告, 43: 39-41.
- 森田忠義. 1981. 甕島列島の陸生脊椎動物. 鹿児島中央高校研究紀要, 10: 37-46.
- 岡本康汰・大田和朋紀・戸田 守・城野哲平. 2017. 甕島列島のヤモリ相と同列島からのニホンヤモリの初記録. 爬虫両棲類学会報, 2017(1): 43-47.
- 鮫島正道. 1995. 下甕島の両生類・爬虫類相, pp. 153-154. 鹿児島県立博物館 (編) 鹿児島県自然調査事業報告書 II—北薩の自然. 鹿児島県立博物館, 鹿児島.
- 柴田保彦. 1981. 鹿児島県甕島列島の両生爬虫類. 大阪市立自然史博物館研究報告, 34: 17-22.
- 柴田保彦. 1990. 甕島列島のヤモリ属の 1 種. 自然史研究, 2(6): 77-82.
- Toda, M. and S. Okada. 1999. New records of the colubrid snake *Dinodon orientale* (Hilgendorf, 1880) (Reptilia: Colubridae) from Shimo-koshikijima and Takeshima Islands, southern Kyushu, Japan. *Bulletin of the Osaka Museum of Natural History*, 53: 53-56.